

最後に、「補遺」についてであるが、ここでも各書誌データには「本編」同様に4桁の一連番号（それも、「補遺」独自の番号ではなく、「本編」と連続する番号）が付与されているため、表面上はその構造自体も「本編」に準拠しているように感じられる。しかし実際には、両者の構造は、部分的には一致するが、基本的にまったく異なるものである。どちらが好ましいかは一概には言えないし、それぞれにデータの特異性を考慮する必要があったことも確かではあるが、しかし、利用する側としては単に迷惑なだけであることも事実である。少なくとも、両者を統一的に検索できる索引を準備すべきであったろう。どなたか適任者のもとで早急に「本編」と「補遺」とを統合・整備する改訂版が作成されることを期待したい。

なお、「補遺」においては、奥付の件は改善され、それを欠くものはないようである。しかし、タイトルページに引用された文章は「本編」同様に、その出典（Alice's Adventures in Wonderland. Chapter IV）が明記されないままとなっていることは遺憾である。そもそもなぜ、この文章が引用されなければならないのだろうか。引用元の原意のままに“me”が「アリス」を意味するのだろうか。あるいはこの“me”は「補遺」という冊子を意味するのだろうか。それとも引用された「引用文」そのものが自身を“me”と呼んでいるのだろうか。つまりは、すべての“me”について“a book”が「補遺」に該当する、と洒落たつもりなのである。

このことから予想されるとおり、この「補遺」は自己呑み込みの構造を有している。残念な（幸いな？）ことに、この自己呑み込みは不完全であるが、もし、

と、同書「補遺」では [1849] に関する注を付しているが、この注記は不完全なままで終わっている。

と、同書「補遺」では [1849] に関する注を付しているが、この注記は……

- 1850 開高道子「Endless Alice」（『潮』 364号, 1989年8月, p.231-237）
- 1851 風間賢二「『アリス』物語とポストモダン小説」（『ユリイカ』24巻4号通巻319号, 1992年4月, 特集「ルイス・キャロル」p.198-208）
- 1852 川又千秋「王国 ルイス・キャロル」（川又千秋『夢の言葉・言葉の夢』（早川書房, 1983年, ハヤカワ文庫JA）p.171-183）
以下に既出。
[0739]（1974年9月）； [1696]（1981年）。
- 1853 定松正編『ルイス・キャロル小事典』（研究社出版, 1994年, 小事典シリーズ4）
- 1854 佐藤良明「今どきのドリームチャイルド」（『ユリイカ』24巻4号通巻319号, 1992年4月, 特集「ルイス・キャロル」p.139-147）
- 1855 澁澤龍彦「アリスあるいはナルシストの心のレンズ」（澁澤龍彦『少女コレクション序説』（中央公論社, 1985年, 中公文庫）p.38-41）
以下に既出。
[0646]（1973年）； [0746]（1974年）。
【文庫】p.111.